

知床五湖地区における取組の進捗状況

トピック

1. 平成 23 年 5 月 10 日から 10 月 20 日まで知床五湖利用調整地区制度が運用され、期間中 59,591 名が立入認定を受け知床五湖地上遊歩道を利用した。期間中、31 回のヒグマ遭遇による遊歩道閉鎖があったが、危険な遭遇事案は発生せず、期間中終日閉鎖された日は 0 日であり、安定的な利用機会を提供できた。
2. 環境省・北大による利用者に対するアンケート調査等のモニタリングが実施された。
3. 平成 23 年 6 月 29 日から 12 月 27 日までに 6 回の知床五湖の利用のあり方協議会が開催され、平成 24 年開園から 5 月 9 日までの利用法・運用に関する検討や、高架木道エントランス等の利用施設の整備内容の検討が行われた。
4. 登録引率者の登録試験が実施され、新規登録者 5 名を含む 28 名が合格した。

1. 知床五湖利用調整地区制度の初年度運用の終了

- ・平成 23 年 5 月 10 日から 10 月 20 日まで知床五湖利用調整地区制度が運用された。地上遊歩道の利用者は 5 月 10 日から 7 月 31 日までのヒグマ活動期に 6,519 名（登録引率者を除き 5,609 名）、8 月 1 日から 10 月 20 日までの植生保護期に 53,072 名、計 59,591 名であった。平成 22 年度の制度開始前に知床五湖の利用のあり方協議会で試算した立入予想数の 130%であった。
- ・期間中のヒグマ遭遇による地上遊歩道閉鎖は、ヒグマ活動期に 24 回、植生保護期に 7 回（ほか、台風による閉鎖 1 回）あったが、終日地上遊歩道が閉鎖となった日は 0 日であり、安定的な利用を提供できた。
- ・ヒグマとの危険な遭遇事案は発生せず、登録引率者による引率のない植生保護期においても、地上遊歩道閉鎖時の避難・退避は利用者により円滑に行われた。利用者全員が事前にヒグマ遭遇時のレクチャーを受講していることがヒグマとの危機回避において有効であった。
- ・簡易ロープ柵設置による利用箇所明確化と事前レクチャーによる教育効果により、展望地周辺の植生の回復が見られた。

2. モニタリングの実施

次のモニタリングが実施された。（一部資料 3 - 1 にて発表）

- ・利用者カウンターの設置（環境省）
- ・利用者対象アンケート（北大・環境省）
- ・知床五湖渋滞状況モニタリング（環境省）
- ・歩道侵食状況調査（環境省）

3. 知床五湖利用のあり方協議会の開催状況

平成 23 年 6 月 29 日第 20 回会議から 12 月 27 日第 25 回まで計 6 回の協議会を開催した。

主な決定・討議事項

- ・平成 24 年開園から 5 月 9 日までの利用法・運用に関する検討を行い、開園から 5 月 9 日までの期間を植生保護期の運用とすることを決定すると共に、平成 23, 24 年度のモニタリング結果をまとめ平成 26 年度以降の運用を検討することとした。
- ・高架木道エントランス等の利用施設の整備内容の検討を行い、利用動線の整理等がなされた。

4. 知床五湖登録引率者登録試験（登録引率者審査部会）

知床五湖登録引率者審査部会による新規養成研修、資格取得者も含む登録試験が行われた。

- ・6 月、10 月に各 2 回ずつヒグマ遭遇ケーススタディミーティングを実施し、遭遇時の対応に関する情報共有を登録引率者間及び関係機関との間で行った。
- ・新規養成研修を実施すると共に、資格取得者も含む登録試験が 11 月、12 月に実施され、新規登録者 5 名を含む 28 名が平成 24 年度の知床五湖登録引率者として合格した。

5. 知床五湖の新たな利用に関する主な広報活動（ウェルカム部会）

- ・平成 23 年 9 月 30 日～10 月 2 日 JATA 旅博へブース出展（東京）
- ・平成 24 年 1 月 17 日 JATA 主催 知床五湖旅行商品説明会（東京）
- ・平成 24 年 3 月 14 日 JATA 主催 知床五湖旅行商品説明会（札幌・予定）